

チャレンジ CHALLENGE

～企業の農業参入～

建設業をはじめとする異業種からの農業参入が、全国的に増えています。市でも、農業の振興や新たな雇用創出の機会ととらえており、その促進に取り組んでいます。

そこで、今年2月に市と農業参入に関する協定を締結し、4月から有明町大浦地区の旧有明東中学校グラウンドを借り受けて、菌床栽培による“きくらげ”の生産を開始した(有)歩産業を訪ねました。



①県と市の補助事業を活用して整備したビニールハウス ②ハウスの内部。きくらげの菌が植えられた菌床がずらりと並ぶ ③きくらげの製品化作業。いしづきの部分をていねいに取り除いて製品化される ④⑤「海辺のきくらげ」として、市内の農林水産物直売所をはじめ横浜市にある天草宝島市場にも出荷 ⑥同社の皆さん。地元の有明町大浦地区からは7人の雇用が生まれました

【問い合わせ先】
(有)歩産業 ☎540040

まだスタートしたばかりですが、こだわりを持って栽培した商品を、「おいしい」といつてもらえたときの喜び『農業の醍醐味』を、日々実感しています。

決意しました。
国内で流通しているほとんどが中国産であること、また、栄養豊富な食品であることなどに将来性を感じ、取り組むことを決意しました。

もともととは建設業でしたが、公共工事の減少に伴い、数年前から新たな事業展開を模索してまいりました。そんな中、出会ったのがきくらげです。

農業の醍醐味を 日々実感



(有)歩産業
塚本智子 代表取締役



▲耕作放棄地を再生・利用して植えられたボタンボウフウ (御所浦町)

目ざすは、天草の発展

ボタンボウフウは、セリ科の多年草で海岸に自生している野草です。私が住む御所浦町では、昔から若葉を天ぷらにしたり、しらあえにしたりして食べています。

天草長寿草研究会では、健康づくりや地域振興などを目的に、市内27の個人・団体が参加して平成22年から栽培をスタート。耕作放棄地を活用するなどして約3ヘクタールに約7万株を栽培し、今年7月には契約している健康食品会社から、初めて出荷しました。現在、ブランド化を図るため、天草で栽培するボタンボウフウを「藍葉梵天草」として



天草長寿草研究会
黒田公生 会長
(御所浦町御所浦・53歳)

て、商標登録を申請中です。私が考えていることは、この作物の栽培を核とした観光や地域づくりなど、天草の発展です。この実現に向けて、今後もボタンボウフウの栽培・普及を進めていきたいと思っています。

地域振興や耕作放棄地の活用などを目的に、市内でもさまざまな作物の栽培が新たな試みとして始まっています。

そこで、健康野草として注目されているボタンボウフウの栽培を手がける天草長寿草研究会の黒田公生会長と、ウイルスフリー（ウイルスが入っていない）苗によるシモン芋の栽培を始めた、JAあまくさシモン部会の吉鶴大和さんに話をお聞きしました。

試み trial

～ボタンボウフウと
ウイルスフリー苗による
シモン芋の栽培～



▲吉鶴さん所有のシモン芋畑



▲収穫されたシモン芋

収量増加で今後に期待 若い担い手の確保が必要

倉岳町特産のシモン芋を、導入当初の24年前から栽培しています。シモンは、ブラジル原産の白いサツマイモです。葉と芋を粉末にして、お茶やめん類などさまざまな製品が作られています。

このような中、芋の収量が以前と比べて減少。10アール当たり1トン程度で、よくとれていたときの3分の1になっていったんです。そこで、収量増大対策として、県の協力を得て今年からウイルスフリー1苗を導入。私は18アールに約4,000株を植え、先日収穫を行いました。明らか



JAあまくさ
シモン部会
吉鶴大和 さん
(倉岳町宮田・73歳)

に収量が増えており、今後に期待が持てると感じました。一方で、倉岳町内でもシモン芋を栽培する人の高齢化が進んでいます。特産として維持するためには、若い担い手を確保しなければならぬと考えています。